



新年のご挨拶

院長 中島 宏



明けましておめでとうございます。年末年始は、ゆっくり過ごせましたでしょうか。

昨年はコロナ騒ぎで明け暮れた1年でしたね。新規感染者の人数でほっとしたりがっかりしたり、気持ちが落ち着きませんでした。年末には新規感染者0の日が増えてきてこのまま収束してしまうのかと期待してしまいましたが、オミクロン株なる変異株が出現し、またかと残念な気持ちになりました。しかしながらウイルスは感染した相手が死んでしまっては生きていけなくなってしまうので、徐々に弱毒化して共存できるように変化していくとされています。どんなに毒性の強いウイルスも、百年経つと無毒化するそうです。コロナ騒動も、そんなことがあったねと笑える日がくるといいですね。

もう少しマスクも我慢して、頑張りましょう。

本年もよろしくお願い申し上げます。

2022年を迎えて

副院長 星 忠行



昨年後半Covid-19 virusも沈静化傾向にあり、一安心と感じておりましたが、この原稿を書いている12月の時点ではオミクロン株の出現で予断を許さない状況となっています。患者さんの感染予防が第一ですが、我々医療関係者もひとたびコロナ陽性者が出たら、外来診療、入院・手術治療も全くストップしてしまうのではという恐怖を感じながら、仕事進めた2021年でした。ある程度の感染を許容しながら社会・経済活動を進めていく世の中と、陽性者を一人でも出してはいけない小松整形外科医院の立場との違いはありますが、2022年こそは明るい未来が開けていくことを切に祈っております。

私個人としては、昨年は専門の膝の手術を140名(2021.1月～11月)の患者さんに行いました。このうちの45名(32%)は、同業の先生からの紹介で大変ありがたいことと思っています。大病院と異なり、この小さなクリニックに紹介していただけることは、信用のおける病院の証ではないかと考えております。

今年もこの信用を裏切らないように、患者さんの為にも、日々研鑽を積んでいかなければならないと思います。本年も宜しくお願い致します。



小松満の コラム ひとり言

第5回

ランキング

理事長 小松 満



今、NHKニュースで都道府県別の新型コロナワクチンの接種率を報じている。私たちの周りにはあらゆるものがランク付けされランキングがあふれている。

人は常に自分と他人を比較しどちらが上位か決めたがる。ランキングがこの世からなくなることはない。

医療界におけるランキングは2005年ころから始まった。厚労省は2002年に「手術数の多い病院は、治療成績が良い傾向がある」という考えのもとに手術数基準を導入した。

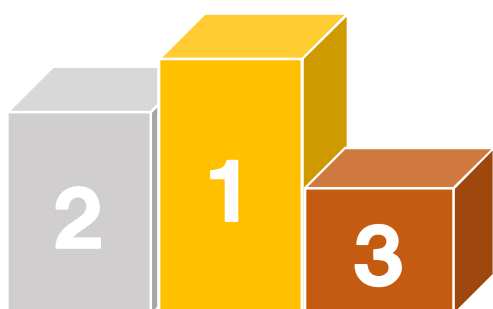
2005年に、週刊朝日は全国1532医療機関の「手術数一覧表」を「いい病院全国ランキング」として初公開し、読売新聞は「疾患別手術件数」を「病院の実力」と報じた。当院は、当時、茨城県で膝靱帯形成術の項目で手術数が1位だった。数年間はランキングを気にしていたがだんだん興味がなくなっている。

手術数が多いほど医師はもちろん他のスタッフも経験が豊富になるので一つの目安にはなる。建築物の高さ、車のスピード、ドーム球場の広さ、ランナーの速さなど根拠のある客観的基準で評価したランキングは信頼できる。

しかし、ランク付けをする基準には、もう一つ主観的基準もあり偏りや意図的に操作されることもある。客観的基準によらないランク付けは信用度が低い。

医療ランキングは、治療件数という客観的基準で評価されるので比較的信頼性の高いものと考えられる。

しかし、多くのランキングは個人の主観を基準としており、根拠のある客観的基準に乏しく信頼度が低いものが多い。



例として、毎年話題になる「都道府県魅力度ランキング」を取り上げてみよう。

これは、民間調査会社が2006年度から開始し、2009年度から発表しているランキングである。

調査対象は47都道府県及び1000市区町村。調査項目は89項

目あり、魅力度はそのうちの1項目にすぎない。

回答者は一人当たり15または16都道府県について、市区町村は一人あたり20地域について回答した。有効回収数は35,489人である。

調査内容は観光意欲度、居住意欲度、産品購入意欲度、イメージ想起率など個人の主観によるものであり、客観的根拠に乏しい。

魅力度調査は、「以下の自治体について、どの程度魅力を感じますか？」という問いについて、1.「とても魅力的」2.「やや魅力的」3.「どちらでもない あまり魅力を感じない 全く魅力的でない」の三段階に分け、それぞれ100点、50点、0点の配点をして順位を決めている。

0点だけが3つの選択肢があり、特に「どちらでもない」を0点に組み入れることは作為的な不適正であり、下位に誘導する設問になっている。当然下位の回答数は多くなり、実際50点以上は3道府県、20点以下は18県となっている。極めてバイアスのかかった意図的な設問形式である。また、回答者は調査モニターとしてすでに確保されていて、とても無作為に抽出したとは言えない。

さらに問題なのは、この会社はデータをデータパック316,800円、総合報告書81,400円、個別報告書50,600円と高価で販売していることである。

評価の低い自治体ほど購入することは目に見えているので、点数が低い県が多いほど売れゆきが増える。金儲け優先の調査であることは明らかで、全く信用できない調査である。

群馬県知事が法的措置も検討すると発言し炎上した騒ぎもむべなるかなである。

大井川知事は「痛くもかゆくもない。賞味期限切れだ。」と無視する発言をしている。私も同じ考えである。おそらく来年は盛り上がらないであろう。

しかし、ナチスの宣伝大臣ゲッペルスは「嘘も100回言えば真実になる」と言った。たとえ内容が間違っているもおなじ情報を繰り返し与えられると人は信じてしまう。

ランキングを鵜呑みにせず、批判的精神をもって見るのが重要となる。

この魅力度ランキングを消滅させる方法は、自治体が報告書を買わないことだ。自然に消滅する。

都道府県魅力度ランキングの主な結果

順位	都道府県名	点数
1	北海道	73.4
2	京都府	56.4
3	沖縄県	54.4
	⋮	
45	埼玉県	14.4
46	佐賀県	12.8
47	茨城県	11.6

手術室に“マット式布団乾燥機”？

麻酔科医 山下 正夫



皆様は、小松整形の手術室で、マット式布団乾燥機のような暖かい風を送る装置が活躍しているのをご存知でしょうか？ 一般名で“エアパット加温装置システム”と呼ばれているこの装置は、全身麻酔下で手術を受けている患者さんの体温を維持するために使われています。つまり、手術中の患者さんが“寒い思い”をしなくても済むように、患者さんを温めている装置です。なぜこんな装置が、手術室で必要でしょうか。

皆様は、夜眠るときには布団に入って寝ていますね。また、「冬山で遭難したときに、眠ってしまうと凍死する」ということを聞いたことがありませんか？これらは、程度の差はありますが、同じ現象の結果です。つまり、私たちが、目が覚めている時は、体温を保持する神経系統がフルに働いていて、ある程度寒い環境でも体から体温が奪われないように頑張ってくれています。

ところが、眠ってしまうと、この神経系統の中央司令室に当たる脳内の「視床下部」では、体を休める状態であると判断し「おやすみモード」に指令をリセットしてしまいます。おやすみモードでは、皮膚から熱が失われやすくなります。また、体内で熱を発生させる代謝が低下してしまいます。つまり、どんどん体から熱が失われ、かつ体内での熱産生も少なくなってしまうので、体温が下がってしまいます。

さて、小松整形では年間約400件の手術が全身麻酔下で施行されています。この、全身麻酔下の患者さんは、深い眠りの状態にあります。つまり、体温が普通の眠りよりもより下がりやすい状態にあります。

ここで、全身麻酔下の患者さんが眠っているところの手術室の温度を考えてみましょう。よく医療系のテレビドラマに出てくるように、手術する先生は全身をすっぽり覆う清潔なガウンを着て手術をしています。また、整形外科の手術では、術者は力仕事をして体を動かすことが比較的多いので、どうしても手術室の温度が低めに設定されてしまいます。

患者さんが、低体温状態に陥ると、代謝機能がよく働かなくなってしまいます。つまり、体内に投与された薬はなかなか代謝されないなので、薬の作用が長引いてしまいます。早い話、全身麻酔からなかなか覚めなくなってしまいます。さらに、体に蓄えてあったエネルギーを使って熱を産生し、体温を維持しようとするので、体内のエネルギーがどんどん消耗されてしまいます。

これらのエネルギーは、侵入してくる細菌などと戦うためにも使われるものでもあります。エネルギーが消耗しては、細菌をやっつけることができなくなってしまいます。術中に低体温に陥ってしまうと、術後の感染率が上昇してしまうとのデータもあります。つまり、手術中体温が下がらない様な対策が必要なわけです。

当院では、術中の患者さんの体温維持のため日本光電社のコクーンウォーミングシステム（図1 本体、図2 加温ブランケット）を使っています。簡単に構造原理を説明します。ファンが回り、フィルターを介して手術室内の空気が本体に取り込まれます。取り込まれた空気は、加温ヒーターで暖められます。体を覆うウォーミングブランケットに温かい空気を送り込み、体を温めています。手術部位によって、色々な種類のブランケットがあります。膝の手術のような時には、上半身を温めるブランケットを使います。また、脊椎の手術の時には、真ん中に穴が空いている全身を覆うブランケットを使っています。

システムの温度は、43度、40度、34度に設定できるようになっています。家庭でエアコンを使うときは、最初に強力に冷やして、一旦冷えたら、冷却を弱めますね。それと同じで、このウォーミングシステムでも、最初は43度の設定でどんどん温めます。患者さんの体温が安定したら、患者さんの体温を常にモニターしながら体温を36.6度前後で保てるように、システムの設定温度を40度で維持するようにしています。

手術によっては、体温の管理に苦労する手術もあります。当院の膝前十字靱帯再建手術などでは、大腿部に駆血帯を巻いて、下肢への血流を遮断して手術しています。その場合、駆血されている部分には暖かい血液が流れなくなっていて、さらに手術部位は大気にさらされているので、どんどんその部分の温度が下がってしまいます。手術が終わって、血流が再開すると、駆血されていた部分の冷たくなっていた血液が全身にどっと戻ってきて、全身の体温が低下してしまいます。冷たい血液が戻ってきても低体温にならないように、駆血されている間は体温を少し高めに保ち、駆血解除後に“適温“になるように心がけています。

私が医者になった頃には、このような装置がなく、手術が終わると患者さんが冷え切っていて、ガタガタ震えていたのを覚えています。昔は大変だったと、回顧しています。



図1
コクーンウォーミングシステム本体



図2 加温ブランケット

仕事中に怪我したら
どうしたらいいの？

労 災 っ て 何 ？

受付 鈴木 美咲

今回は、患者様からよくあるお問い合わせについて、わかりやすくお答えしたいと思います。

当院は労災保険指定医療機関になります



労災保険指定医療機関とは、労災保険法の規定による療養の給付を行うものとして、労災保険法施行規則第11条第1項の規定により、都道府県労働局長が指定する病院又は診療所のことを言います。

労災保険指定医療機関ではないと労災保険で受診する事ができませんのでお気を付けてください。

労災保険には、業務災害と通勤災害の2種類あります



業務災害とは？

労働者の業務上の
負傷・疾病・障害・死亡のこと

(例)

「社内で階段を踏み外して、骨折した」
等

通勤災害とは？

労働者の通勤途上の
負傷・疾病・障害・死亡のこと

(例)

「車で自宅から会社へ向かっている途中で
事故にあった」等

この2つの災害が、労災保険の対象となります。

労災保険を使用して受診する際の流れをご説明します

- 1 | 業務中に怪我をして、労働災害が発生したことを職場の上司（または労災担当）に報告する
- 2 | 病院に受診する
業務中や通勤途中に怪我をして労災扱いになる旨を、**病院の受付時**に必ずお伝えください。
(労災保険を使用するので健康保険証はお使いいただけません)
- 3 | 労災保険の手続きをする
療養補償給付たる療養の給付請求書を作成していただきます。

労災保険の手続きに必要な書類についてご説明します

労災の種類や、初診なのか他医からの転医なのかによって必要な書類が異なりますので下記を参考にしてください。



	初 診	他医からの転医
業務災害の場合	様式第5号（業務災害用） 療養補償給付たる療養の給付請求書	様式第6号 療養補償給付たる療養の給付を受ける指定病院等（変更）届
通勤災害の場合	様式第16号の3（通勤災害用） 療養給付たる療養の給付請求書	様式第16号の4 療養給付たる療養の給付を受ける指定病院等（変更）届
公務災害の場合 （※公務員の方）	様式第6号 療養補償請求書（外来入院それぞれ 月1枚必要）	

書類は管轄の労働基準監督署または会社にて確認していただきご用意下さい。

該当の書類を用意し、必要箇所を記入いただいた上で窓口までお持ちください。

なるべく早めに書類の作成を進めてください。

書類が受理されますと労災保険から治療費が支払われる仕組みになりますので、基本的には被災者（患者様）が治療費を支払う必要はありません。（一部自己負担分除く）

初診時に書類を用意することが難しい場合は、当院では書類ができあがるまで**一度全額自己負担（100%）**していただき、書類をお持ちいただいた段階で**返金対応**とさせていただきます。返金時には領収書が必要になるので無くさずお持ちになるようお願いいたします。

ご不明な点などありましたら、お気軽に受付へお問い合わせ下さい。